

△古文▽

次の文章は石川雅望『とはずがたり』の一節である。江戸で旅館を営んでいた筆者は、身に覚えのない嫌疑をかけられ、従業員と共に四ヶ月前から数度にわたって町奉行の取調べを受けていた。そして、旅館は営業停止に追い込まれてしまった。財没収・江戸追放という刑罰を受けた筆者は、かろうじて知人の家に行き着いた。これを読んで、後の問いに答えよ。

ここより人をやりて聞けば、「家には今朝より官吏兩人来たりて、家内の調度、衣服、かまどの奥まであらため見て、ものに書いておはす」といふ。「妻子はいかに」といへば、「子たちは、隣の家にありて、ひた泣きに泣きてゐ給ふ。妻は、役人のあないして、調度などあつかひてゐ給ひつる」といふ。さて、悲しき目をみることにぞありける。

A つゆけしと人や見るらんきのふまで涙そそぎし草の庵いほりは
かかる目みんとは知らで、去年の夏、ゐもひろげ、すべてここかしこ修理くはえつるなど、みないたづら
ことにこそあなれ。

問一 Aの歌について、この歌における心情の説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ
選べ。

- ① 犯した罪を悔いて仏に救いを求めている。
- ② ひそかに我が家のすばらしさを誇っている。
- ③ 妻子を悲しませてしまった自分を恥じている。
- ④ 住み慣れた愛着のある家を失って悲しんでいる。
- ⑤ 一夜ですべてを失うこの世の無常を恨んでいる。